

《原 著》

胸痛患者における運動負荷 ^{201}Tl 心筋 SPECT の 費用効果分析 (第 I 報)

小須田 茂* 市原 清志** 樺山 幸彦*** 大鈴 文孝***
草野 正一*

* 防衛医科大学校放射線医学講座

** 川崎医科大学検査診断学科

*** 防衛医科大学校第一内科学講座

要旨 胸痛患者に対して、運動負荷 ^{201}Tl 心筋 SPECT 施行群、冠動脈造影 (CAG) 群と経過観察群の三群に分類し、判断樹を作成して各群 1,000 例をシミュレーションし、総医療費と心臓死を含む心事故件数を算出した。検査精度、死亡率、心事故発生率、検査料は文献ならびに当院のデータを用いた。狭心症有病率 33%、運動負荷 ^{201}Tl 心筋 SPECT の狭心症診断における sensitivity, specificity をそれぞれ 95%、85% とすると、CAG 群、経過観察群、SPECT 群の平均コストはそれぞれ、84.9 万円 / 患者、30.2 万円 / 患者、71.0 万円 / 患者であり、心事故発生数ではそれぞれ 56 件、264 件、65 件、心臓死では 15 件、81 件、17 件となる。SPECT 群は CAG 群と比較し、583 件の CAG 検査を減小させ 13.8 万円 / 患者の医療費削減が期待される。結論として、運動負荷 ^{201}Tl 心筋 SPECT は CAG 群に比較して心事故を 0.9%、心臓死を 0.2% 増加させるものの、医療費抑制に貢献すると考えられる。

(核医学 36: 715-723, 1999)